

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440-1
自己評価作成日	平成 22年 10月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 11月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ、海もすぐ近くという豊かな自然の中で、春はいちご狩り、夏は蛍狩り、秋はぶどう狩りと、近隣の自然、資源を活用しながら利用者の方々に季節を感じて頂く行事を積極的に行っています。行事以外でも、施設に設けられた畑で散歩がてら、農作物の成長を觀賞したり、収穫したりしてのどかな環境の中での身近な自然を利用者の方に感じて頂けるよう努めております。また、地域の運動会、幼稚園や保育園を訪問したり、お祭りに参加したりと、地域の人々との交流も以前に増して深めております。地の利を活かし、一年の日々の変化を利用者の方々に感じて頂けるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれた4階建ての総合施設の1階に当該事業所がある。敷地に設けられた畑で作物の成長を楽しんだり、収穫した物を食材にして季節を味わうことができる。地域の方々との交流は機会あるごとに工夫しながら深めている。職員の異動も比較的少なく、ケアの積み重ねができ落ち着いた雰囲気の中で利用者は生活できている。居住環境は清潔に保たれており、細かい安全に配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 桑原 陽子

評価完了日 平成 22 年 10 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム独自の理念を作成し、ホーム内に理念の掲示をしたり、記録等のファイルに収める等し、いつも目に付くことで意識共有できるようにしている。また、新人オリエンテーションの際には理念を実践につなげる方法について説明している。</p> <p>(外部評価) 3年前に法人の理念を基に、ホームの理念を職員で作成した。管理者等は年2回職員と面談し、各自が理念にどのように対応していくか、また、その結果について話し合っている。理念はホーム内に提示したり、記録のファイルに入れるなどしており、意識付けに役立ち実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 周辺地域の各保育所や幼稚園へ訪問させて頂いたり、地域の行事にも参加させて頂いている。納涼祭をはじめとする施設行事にお誘いし交流を図るようにしている。地域の方が、季節の野菜を届けて下さることもある。</p> <p>(外部評価) 地域の行事の運動会やお祭りにはよく参加して、神輿も入れてもらっている。保育所や幼稚園との交流も続いている。地域の方々へホームの行事への参加を働きかけている。また、農作物の差し入れもある。法人としての相談等対応の窓口があり、必要時対応している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学、面会に来られた方等から相談を受けた際は、認知症の症状や支援の方法等、出来る限りお応えするよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況報告や評価の結果、その後の取り組み等を説明し意見を頂いている。取り組めることは、改善、実施し、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて地域の情報収集ができ、交流が進んでいる。職員も出勤に応じて参加しており意識付けになっている。地域の参加者の協力意識は高まっており、提供するサービスの質の向上に活かすよう努めている。	学校の先生や婦人会長など議題等に応じて参加者を変更するなどの柔軟性を持ち、地域との関わりをさらに深めよりよいサービスが提供できるよう、今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 伊予市のグループホーム協議会が開催される時は出席し、意見交換を行っている。また、制度等の分からない事や困ったことがあれば、その都度、市の担当者に相談している。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加もしてもらっている。日常的に相談や情報提供も必要に応じて行っており、良好な関係が構築されていると言える。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部の研修だけでなく、事業所内でも勉強会を行い、正しい知識を身につけるように努め、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 内外の研修会や勉強会で学び、職員は理解をしている。また、日々の業務でもお互いに確認し合っって身体拘束のない、利用者本位のサービス提供ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の研修に参加したり、事業所内で勉強会を行い、学ぶ機会を作り意識を高めている。また、職員間でも注意をし、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修で学んだり、事業所内でも勉強会を行い、学ぶ機会を作っているが、今のところ当ホームでは、該当者がおらず、活用例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に書面に基づき口頭で説明を行い、理解して頂いた上で同意書をとっている。質問や不安・疑問点があれば、いつでも聞いてくださいと声をかけ、理解を深めて頂くよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などに要望や意見をお聞きし、運営に反映させるよう努めている。利用者や家族の思いが引き出せるような声かけを行っている。また、施設、ホーム内に苦情窓口を設けている。 (外部評価) 意見を聞く窓口や箱を設置したり、面会の時や電話連絡をする時等、意見や要望を話しやすい環境づくりを大切にしている。また、家族が知らないということがないように細かい連絡にも心掛けている。出された意見は職員間で共有し、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回の個人面接の際やミーティング、日々の業務の中で、意見や要望・提案を聞く機会を設け、必要に応じて職員で話し合い反映するように努めている。 (外部評価) 年2回の定期的な面談やミーティング等で意見や提案を聞いている。管理者は職員からの意見を真摯に受け止め、出された意見が採用されない時等の理由をきちんと説明したり、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の自己評価、人事考課や職員からの報告で把握し、可能なことは対応するように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修で職員全体の知識、技術の向上を目指している。また、個人の希望に応じて法人外の研修も勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等を通じて交流し、意見交換等から良いところは参考にする等し、サービスの向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学に来て頂いたり、ご家族からもお話を聞くことで、本人の理解に努めている。入所後は、環境の変化による不安や混乱に配慮しながら、思いや要望の把握に努め、職員・他入居者と早くなじみの関係が築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に家族の要望や不安をお聞きし、それに対して具体的なサービス内容を説明し、話し合うことで信頼関係を築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学や入所相談の段階で本人の状態をお聞きし、必要とされるサービスについて説明させて頂くようにしている。入所後は、ホームの生活に徐々に慣れてもらえるよう十分配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人差はあるが、調理・畑・季節行事等を通じて生活の知恵等を教わり、共に支え合う関係を築くように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族や知人の面会時等はコミュニケーションを図り、ご本人について教えて頂いたり、何かあれば相談しアドバイスを頂く等している。ご本人に対する変化はできる限り早くご家族へ連絡し、共に本人を支える関係を築くよう務めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも面会に来てくださいと声かけし、訪問しやすい雰囲気作りに努める他、地域のお祭りやなじみの場所に出かける支援に努めている。 (外部評価) 知人や友達と同じ建物内にある施設に面会に来た時等、面会に来てくれたり、近所の方の訪問もある。また、親戚等の結婚式や法事への参加も大切にしており、家族が行えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 性格や行動等考慮しながら、席の配置や作業の分担等を行っている。また、レクリエーションや行事を通じて交流を深めらるよう関係作りにも努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院により退去になった方のお見舞いに行ったり、退去された方のご家族から相談があれば、お話を聞くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に思いや意向を聞きだせるように支援を行い、今後の支援に活かせる情報は職員間で共有している。また帰宅願望や不穏の際は、傾聴し出来る限り希望に沿った対応を心がけている。状況によっては、思いの原因を探るべく、情報収集、話し合いを行っている。 (外部評価) 日々の会話等から思いを汲み取ったり、聞き取ったりした情報をカンファレンスやノートで共有している。思いをうまく伝えられない利用者については、家族から聞き取る等して利用者本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所された際にご家族に血縁関係、年代別の来歴やエピソード、習慣、好み等を項目別に記入して頂いている。またご家族が面会された際にも、過去の事を尋ねたりして把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態によっては日中休んで頂く様に声掛けしたり、落ち着かない時は、散歩して気分転換していただくよう努めている。また有する力を把握し、本人の希望をきいてお手伝いしていただく等現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 入所する際にご家族にどのように過ごして頂きたいのかお聞きしたり、時間を作り職員・ご家族と話し合ったりしている。またご家族が面談に来られた際もコミュニケーションを図り、そこで得た情報をケアプラン作成の際反映させている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望を聞き取り、ケアカンファレンスを経て作成している。立てられた計画は実施表を用いて日々の実施状況を確認し、1か月ごとに評価を行っている。特に変化のない場合は、3か月ごとに見直しをしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の様子やケアの実践・結果は個別記録し、職員間で情報共有している。また、よりよいケアを提供できるように話し合い、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況、要望は可能な限り受け入れ、ニーズに対応できるように努めてはいるが、サービスの多機能化に関しては、もっと検討する必要がある。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 秋祭りや地域の運動会に参加している。また、みかん狩り、たけのこ狩りといった行事を近所の方のご好意により協力により行うなど、以前より地域の方々と交流する機会が増えつつある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所時に本人及び家族等の希望を確認し、馴染みのある 医師による継続的な医療を受けられるよう支援して いる。また、往診に来てくださる病院を把握し、必要 な方に診療が受けられるよう体制を整えている。施設 の嘱託医に週一回は、往診に来ていただいている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関で受診ができるよう 支援している。また、協力医療機関からの往診も週1 回ある。看護師である管理者が医療機関との連絡を 行っており、事業所と医療機関のスムーズな連携が取 れている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々の健康管理、観察はもちろんのこと、必要時同施設 の看護職やかかりつけ医と連絡を取り、状態の変化 や異変の早期発見・早期対応に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、環境の変化への不安や混乱を最小限にで きるよう医療機関へサマリーを作成し情報を提供して いる。また、入院中は関係者と連絡を取ったり、病院 に足を運び本人の状態を把握するように努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ターミナルケアは行っていない為、施設として出来る 事の限界を入所時にご家族にお話し、理解していただ いている。また、重度化した場合、ご家族・医師と話 し合いの場を持ち、その後の対応について話し合いを 行っている。</p> <p>(外部評価) 利用開始時に家族に事業所としてできること、できな い事をきちんと説明し、理解してもらっている。利用 者の重度化については必要に応じて関係者が話し合い をし、利用者が安心して生活できるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日々かかりつけ医、看護職との連携に努めており、急変や事故発生時に備えて、連絡方法や手順は把握している。ミーティングの際に急変時の対応の確認を行っているが、実践的な訓練、実演までは行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成しており、地域の消防署の指導により、年2回訓練を受けている。また、地域の方へ防災訓練に参加させて頂けるようお願いしており、施設の防災訓練にも参加を呼び掛けている。 (外部評価) 年2回、同法人や消防署の協力を受け、利用者も参加して夜間を想定する等の訓練を実施している。火災に関するマニュアルも作成している。運営推進会議の参加者や地域の方に協力を呼びかけているが、訓練への参加等は十分とはいえない。	同じ建物内にある施設の職員の協力は得られるが、地域の方の協力体制は十分ではない。地域の防火訓練やホームの訓練等お互いに協力体制を構築し、地域との関係を充実させていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全職員が、利用者の尊厳、プライバシー確保の重要性を理解している。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として尊重し、それぞれのペースに合わせてゆったりと接している。また、温かで親しみのある声かけがされており利用者も穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 土曜日になるべく多くの利用者に参加して頂いて、行事について話し合いを行う事もあるが、それを十分に行事に反映させる努力が必要な段階である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、日中居室で過ごしてもらったり、自由参加でレクリエーションを楽しんで頂いたりしている。夕食後もそれぞれのペースで過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気温、気候、季節を考え衣服を準備している。散髪は施設に回ってくる理容師によって行われている。依然、更衣の時、職員が選んでいるという状況である。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物や行事の際の食事は考慮している。しかし、献立は職員が立てている。もっと利用者の希望を聞きだし献立に反映させる努力が必要である。食事の準備は、きぬさやのすじ取り、もやしのヒゲ取りなど出来る事は手伝って頂いている。 (外部評価) 職員は利用者の希望を聞きながら、献立を考えている。買出しや準備、後片付け等、利用者ができることを無理のないよう配慮しながら職員と共に行なっている。また、誕生会は手作りのケーキを作る等楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 白米をなかなか食べない利用者に対し、おにぎりにして出してみたり、おかゆしてだしてみたりと工夫している。また、水分をなかなか摂ろうとされない利用者に対しては、何度も声掛けし、こまめに水分をとって頂いたり、ストローを使ってみたりと工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 介助が必要な利用者には、必ず声をかけ付き添い、口腔ケアを行っている。また、利用者の口腔状態に応じて、洗浄液を使う等、本人の状態に応じたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 介助が必要な利用者には、付き添い、支援している。また排泄パターンを掴み昼夜関係なくトイレ誘導を行っている。夜間オムツを使用している利用者はいが、日中はトイレで排泄してもらうべく努めている。	
			<p>(外部評価)</p> 必要に応じてトレーニングパンツやパットを使用している。昼間はできるだけ布のパンツを使用し職員が声かけや誘導等、個々に合った対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 利用者によっては、牛乳を勧めてみたり、水分補給を促しているが、下剤を使用している現状である。下剤の使用については、排便状態に応じて、適切な量・使用頻度の模索に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> あまりにも入浴間隔が開いた利用者には時間をかけて説得し、入浴して頂く様になっているが、基本的に希望されない場合は、翌日に入浴して頂ける様に声掛けし、本人の希望を優先している。入浴の時間帯に関しては、午後の時間帯に固定している。	
			<p>(外部評価)</p> 入浴は午後に行うようにしているが、希望や必要に応じて柔軟な対応をしている。入浴を嫌がる利用者には、相性の良い職員がタイミングを見ながら声かけをする等、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 夜じっくり眠ってもらうためなるべく昼間は起きるように促したり、担当医になるべくベッド臥床をするように勧められている利用者には、こまめに声掛けし休息を促している。日中の活動状況、夜間の様子などは職員間でよく情報交換できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示がある薬に関しては、利用者の状態に合わせて薬を調整している。利用者の状態によっては、薬の副作用の確認を行っている。また、誤薬防止に関しては、二名以上の職員で確認している。また下剤など常に飲まない薬に関しては、チェックシートを使用し、飲み忘れがないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じ、お茶くみやお皿拭き、洗濯物たたみなどを利用者の負担とならない程度に活動の支援を行っている。またスピーチが好きな利用者には、行事で挨拶して頂くなど、利用者の性格なども考え、役割分担している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に応じて職員とともに散歩などは行っているが、ドライブするといった行事に関しては、その日の希望ではなく、事前に職員が計画し、行っている。週三回の買い物の際は、以前より利用者へ同行して頂く回数が増えている。	
			(外部評価) 定期的に週3回お買い物を計画している。また、利用者の希望があればできるだけ対応している。行事担当の職員が利用者の希望を聞きながら、ぶどう狩りや蛍狩り、外食等を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理はほとんど職員が行っている。しかし、金銭は主に日常に必要な物を購入する事が多いため、もっと利用者へその時に欲しい物、食べたい物など買い物を楽しむべく、働きかける必要がある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望が出た場合行っているが、電話を希望される方は少ない。手紙のやりとりは、年一回の年賀状のみで、職員の働きかけをもっと増やす必要がある。あるいは、面接にあまり来られないご家族に手紙を出す等、個人個人の状況に応じて働きかける必要がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節によって壁の飾りを変えたり、利用者に季節の物の水彩画を書いていただき、それを掲示したりしているなど、季節を感じられる心地よい空間をつくるべく努めている。</p> <p>(外部評価) 共用空間はゆったりとしたスペースが確保されており、廊下や洗面所、風呂等には手すりが取り付けられている。台所からは、利用者の様子が見え、作業しながらでも利用者との会話が楽しめる。窓からの自然豊かな風景は季節を感じることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 皆で過ごすテーブル席以外、テレビの周りにはソファがあったり、そこから離れた場所には長椅子があったりと、一人でも過ごせる空間を設けている。また皆で過ごすテーブルも利用者同士の関係を考慮し、必要であれば席替えを行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時になじんだタンスや手押し車など持って来て頂けるように、入居案内に記し、口頭でも説明を行っている。また安全に暮らして頂けるように、居室内の棚やベッドの位置などを利用者の状態、行動を考慮し、配置している。</p> <p>(外部評価) 使い慣れたいすや机、タンス、テレビ等が利用者の好みに配置され、草木鉢や書、絵等が思い思いに飾られている。季節の衣類は大きな収納スペースにしまうことができ、家族の協力を得て衣替え等も行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の歩行能力に応じて居室と食事の席を近くしたり、夜間トイレが多い方は、トイレに近い居室にしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	平成 22年 10月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 11月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本グループホームは、同一建築物内に特養等がある併設型のホームです。等ホームは、周りは田園で囲まれ、上の階に行けば、瀬戸内海が一望できる自然豊かな所にあります。また、畑があり利用者さんと植え付けや収穫などをして、四季を感じてもらっています。併設型なので、看護師も多く、24時間体制で急変時等の対応ができ、利用者さんやご家族の方も安心だと思います。あの日、あの時、今その時を大切に、優しい心、敬う心、誠実な心で支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれた4階建ての総合施設の1階に当該事業所がある。敷地に設けられた畑で作物の成長を楽しんだり、収穫した物を食材にして季節を味わうことができる。地域の方々との交流は機会あるごとに工夫しながら深めている。職員の異動も比較的少なく、ケアの積み重ねができ落ち着いた雰囲気の中で利用者は生活できている。居住環境は清潔に保たれており、細かい安全に配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 桑原 陽子

評価完了日 平成 22 年 10 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員で以前考えた理念を基に個人目標を立て、半年に1度自己評価をしてもらうことによって、再確認し、実践につなげるようにしている。また入職時オリエンテーションの際には理念と実践方法について説明するようにしている。</p> <p>(外部評価) 3年前に法人の理念を基に、ホームの理念を職員で作成した。管理者等は年2回職員と面談し、各自が理念にどのように対応していくか、また、その結果について話し合っている。理念はホーム内に提示したり、記録のファイルに入れるなどしており、意識付けに役立ち実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に積極的に参加させて頂くようにし、当施設の行事等の際には周辺地域の方に招待状を送るなどして、交流を図るように努めている。また、外出する機会を少しでも多く持てるように心がけている。</p> <p>(外部評価) 地域の行事の運動会やお祭りにはよく参加して、神輿も入れてもらっている。保育所や幼稚園との交流も続いている。地域の方々へホームの行事への参加を働きかけている。また、農作物の差し入れもある。法人としての相談等対応の窓口があり、必要時対応している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学の方や面会の方から認知症について相談があれば説明をし、理解を広めるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、現状や課題に対する意見を出してもらい、そこで出た意見を業務に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて地域の情報収集ができ、交流が進んでいる。職員も出勤に応じて参加しており意識付けになっている。地域の参加者の協力意識は高まっており、提供するサービスの質の向上に活かすよう努めている。	学校の先生や婦人会長など議題等に応じて参加者を変更するなどの柔軟性を持ち、地域との関わりをさらに深めよりよいサービスが提供できるよう、今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 伊予市グループホーム協議会が開催される時は出席している。また分からない事があれば市町村の担当者に相談するようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加もしてもらっている。日常的に相談や情報提供も必要に応じて行っており、良好な関係が構築されていると言える。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に対する勉強会等を開き、職員全員の身体拘束に対する意識を向上させ、拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 内外の研修会や勉強会で学び、職員は理解をしている。また、日々の業務でもお互いに確認し合っって身体拘束のない、利用者本位のサービス提供ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法に関する勉強会を開き、職員全員で把握し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度に関する勉強会を開き、制度に関する理解を深めることが出来るように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、不安や疑問などを聞くようにし、今後も困ったことがあればいつでも質問して下さるように声をかけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常の業務の中で、本人から出た希望などを積極的に取り入れるように努めている。また、面会に来られたご家族とも会話をもち、意見を聞き出すことによって運営に反映出来るように努めている。 (外部評価) 意見を聞く窓口や箱を設置したり、面会の時や電話連絡をする時等、意見や要望を話しやすい環境づくりを大切にしている。また、家族が知らないということがないように細かい連絡にも心掛けている。出された意見は職員間で共有し、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 会議では、職員の意見に出来るだけ耳を傾け、その意見を業務に反映出来るように努めている。また、会議では言いにくい意見なども引き出す為に、1対1で話すように努めている。年2回個人面接も行っている。</p> <p>(外部評価) 年2回の定期的な面談やミーティング等で意見や提案を聞いている。管理者は職員からの意見を真摯に受け止め、出された意見が採用されない時等の理由をきちんと説明したり、運営に反映できるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年に2回自己評価を行い、それに対する面接を行うなどして職員の現状を把握するように努めている。また、その際に職員の職場に対する要望なども聞き入れるようにし、出来ることは対応出来るように努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) リーダーは研修などに参加し職員を育てる仕組みを学習し、反映出来るように努めている。また、一人ひとりの勤務を注意深く観察し力量を把握出来るように努めている。個人の希望も聞きながら研修について情報提供し、積極的な参加を促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修等を通して同業者と交流する機会を持つように心がけている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に見学に来て頂き、ご家族のお話などから本人の理解に努めている。また、入所後は本人と積極的に会話を持つなどして、状態観察を行い、出来るだけ不安を取り除けるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、ご家族の希望や不安に思っている事を聞き出すように努め、具体的に説明する事で信頼関係を築けるように努めている。また、入所後も本人の現状報告などを行い、安心して頂けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前の段階で、今どのような支援を行っていくべきかをご家族と話し合い、その話し合った内容に基づいた援助が出来るように努めている。必要時は他のサービスについても説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常の業務において、本人から教えて頂いることは積極的に教えてもらうようにし、介護するだけの立場にならないように努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会などの際に、ご本人についてお伺いしたりアドバイスを頂いたりして、共に本人の事を考えていけるような関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来られた方とは、積極的に会話を持つようにし、また来て頂けるように声をかけ、本人との関係が途切れないように努めている。また、地域の行事に参加するなどして、地域との関係を維持出来るように努めている。 (外部評価) 知人や友達が同じ建物内にある施設に面会に来た時等、面会に来てくれたり、近所の方の訪問もある。また、親戚等の結婚式や法事への参加も大切にしており、家族が行えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 業務の中で利用者同士の関係を注意深く観察し、座席の配置などには気を配り、日々の生活の中でも利用者同士が交流を図りやすように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への退去、入院で退去になった方の面会やお見舞いに行ったりしている。また、退去された方のご家族から相談があればお話を聞くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で、ご本人の言動やご家族のお話より思いや要望の把握に努め、それをカンファレンス等で話し合い、支援出来るように検討している。 (外部評価) 日々の会話等から思いを汲み取ったり、聞き取ったりした情報をカンファレンスやノートで共有している。思いをうまく伝えられない利用者については、家族から聞き取る等して利用者本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族、本人、担当のケアマネ、サマリー等の情報を基に把握に努めている。また、必要な情報はその都度お聞きして本人の生活の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活の中でその日その時の一人ひとりの状態の把握に努め、それに対してより良い対応が出来るように努めている。また、出来る能力を見つけ出し役割にかなげるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、本人との日々の関わりの中で、本人の願いや状態の変化を観察し、家族の要望等も基に職員間で話し合い作成している。また、本人の状態の変化等あれば、職員間で話し合い変更、追加している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を聞き取り、ケアカンファレンスを経て作成している。立てられた計画は実施表を用いて日々の実施状況を確認し、1か月ごとに評価を行っている。特に変化のない場合は、3か月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子やケアの実践、結果を個別記録に記入し、その情報を職員間で共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に対し、可能な限り対応しているが、サービスの多機能化の取り組みは不十分である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の保育所・幼稚園等の交流やスーパーへの買い物等、地域資源との協働を図っているが、本人の要望には十分に答えられていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医は、本人及び家族の意向どおりにしており、受診の際には必要な情報の提供を行っている。また、本人の状態に変化があれば、かかりつけ医に連絡、相談を行っている。嘱託医は週に一度、往診に来て頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関で受診ができるよう支援している。また、協力医療機関からの往診も週1回ある。看護師である管理者が医療機関との連絡を行っており、事業所と医療機関のスムーズな連携が取れている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 介護職員は、本人の状態変化等観察し、必要時同施設内の看護師等に報告し、本人が適切な受診・看護が受けられるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院した時は、サマリーを作成し必要な情報を医療機関に提供している。また、利用者が入院中は職員が面会に行き、病院関係者との情報交換や相談に努め、退院の準備を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時に、当事業所で、できること・できないことを説明させて頂き、理解して頂くようにしている。本人の状態に応じて、早めに家族やかかりつけ医に相談し、必要に応じて他施設や医療機関に移っていただいている。</p> <p>(外部評価) 利用開始時に家族に事業所としてできること、できない事をきちんと説明し、理解してもらっている。利用者の重度化については必要に応じて関係者が話し合いをし、利用者が安心して生活できるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応マニュアルを作成している。応急手当等の訓練は、定期的に行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、避難訓練を実施している。地域の防火訓練に参加させて頂く様に声を掛けている。また、施設の防火訓練にも参加をお願いしている。 (外部評価) 年2回、同法人や消防署の協力を受け、利用者も参加して夜間を想定する等の訓練を実施している。火災に関するマニュアルも作成している。運営推進会議の参加者や地域の方に協力を呼びかけているが、訓練への参加等は十分とはいえない。	同じ建物内にある施設の職員の協力は得られるが、地域の方の協力体制は十分ではない。地域の防火訓練やホームの訓練等お互いに協力体制を構築し、地域との関係を充実させていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応するように努力している。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として尊重し、それぞれのペースに合わせてゆったりと接している。また、温かで親しみのある声かけがされており利用者も穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の場面ごとに埋もれてしまいがちな、本人が決める力やその人らしい希望や願いを意図的に引き出す取り組みは心掛けているが、十分に出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り利用者の希望に沿い、その方のペースで日々過ごして頂くよう支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者に今日着る服をできるだけ選んで頂いたり、使い慣れた化粧品などを持ってきて頂いたりして、その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な料理の下ごしらえ、料理の盛り付け、お茶くみ、お皿ふき等行って頂いたり、食材の買出しを職員と一緒にしたりして、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
			(外部評価) 職員は利用者の希望を聞きながら、献立を考えている。買出しや準備、後片付け等、利用者ができることを無理のないよう配慮しながら職員と共に行なっている。また、誕生会は手作りのケーキを作る等楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量は、体重の増減等の考慮、生活習慣病等のある利用者にはかかりつけ医の指示を仰ぎ量を調節している。献立は栄養士がチェックしている。水分量は、利用者のペースに合わせ声掛けし確保している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けや援助によって口腔ケアを行っている。また、定期的に入れ歯洗浄剤等を使用し、清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行なうことにより、排泄の自立を支援している。	
			(外部評価) 必要に応じてトレーニングパンツやパットを使用している。昼間はできるだけ布のパンツを使用し職員が声かけや誘導等、個々に合った対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因をあまり探っておらず、下剤等に頼っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は午後からで、入浴期間が開いている利用者から、優先的に声掛けをさせて頂いているが希望があればなるべく入浴出来るように支援している。	
			(外部評価) 入浴は午後に行うようにしているが、希望や必要に応じて柔軟な対応をしている。入浴を嫌がる利用者には、相性の良い職員がタイミングを見ながら声かけをする等、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望やペースに合わせて休息したり、眠って頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全利用者の服用している内服薬一覧表をまとめファイリングし、職員が把握しやすくしている。飲み忘れや誤薬がないよう、複数の職員でチェックしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴や日々の関わりの中で、その人にあった役割を行って頂けるように支援している。散歩や外出、嗜好品の買い物等で、楽しみや気分転換となるよう支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事等で利用者の外出支援を図っているが、場所や日時を職員で決めているため、利用者の希望には添えていない事が多い。	
			(外部評価) 定期的に週3回お買い物を計画している。また、利用者の希望があればできるだけ対応している。行事担当の職員が利用者の希望を聞きながら、ぶどう狩りや蛸狩り、外食等を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理は職員が行っており、希望時に使用できるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望すれば、電話等できるよう支援している。年末には年賀状を出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアに花や季節の物、外出時の写真等を飾り、居心地よく過ごせるように配慮している。	
			(外部評価) 共用空間はゆったりとしたスペースが確保されており、廊下や洗面所、風呂等には手すりが取り付けられている。台所からは、利用者の様子が見え、作業しながらでも利用者との会話が楽しめる。窓からの自然豊かな風景は季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間にソファを置き、自由に過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時にはご本人が家で使用していた使い慣れたものを持って来て頂き家での生活空間に近づく、本人が居心地よく過ごせるようお願いしている。	
			(外部評価) 使い慣れたいすや机、タンス、テレビ等が利用者の好みに配置され、草木鉢や書、絵等が思い思いに飾られている。季節の衣類は大きな収納スペースにしまうことができ、家族の協力を得て衣替え等も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) フロアや居室には、利用者の障害となるような物は置かず安全には配慮しているが、自分の力を生かして動けることを支えるための個別の設備道具の工夫は、十分にできていない。	